

教育支援部だより No.2

H30 5月

4月に入学したばかりの小学部1年生の子どもへの合理的配慮の例をご紹介します。

慣れない環境で、新しい人と新しい取組・・・と1年生にとっては、疲れることが多い毎日です。

H君の入学してすぐの4月のできごとです。

以前に手を怪我してあったとのことですが、入学して環境の変化により気持ちのしんどさからか、「痛い。」と訴え、お家で絆創膏をはってもらいました。お母さんの記録から、12～19日まで手のことを気にしていることがわかりました。最終19日には、両手を組んだまま登校しました。両手を組んでいては、とても不便です。

給食の時間も、組んだ両手の間にフォークを挟んで、食べにくそうでした。そこで、担任は「今日は食べさせてほしいだね。」と食べさせてもらうことを提案。食べさせてもらうことで、おなかいっぱい食べました。

帰りの準備も大変です。ランドセルをロッカーから運んできたものの、いろんなものをランドセルに入れるのが大変！そこで、担任は「今日は先生がしょうか？」と声をかけ、帰りの準備は完了しました。翌日からは、手のことを気にする様子もなく、登校しています。また課題は出てくると思いますが、担任は日々子どもの様子を見ながら対応しています。

周りの大人は、「自分でできることはしてほしい！」という思いはありますが、こうしたことの積み重ねで、「しんどい時は頼ることができるんだ」と子どもが思うことができ、信頼関係が築かれることができるのです。



しんどいなあ...



こまったなあ...
ランドセルに入れにくいなあ...



今日は、先生が
しょうか?

信頼関係＝人間関係の土台

「しんどい時に頼ることができる」と思う気持ちは信頼関係につながります。

個々への対応は＝合理的配慮

気持ちにより添い、できることも手伝うことが必要な時もあります。



「一緒に頑張ってみよう」「困ったことを話してみよう」

「しんどいこともがんばってみよう」・・・こんな気持ちが育ちます。